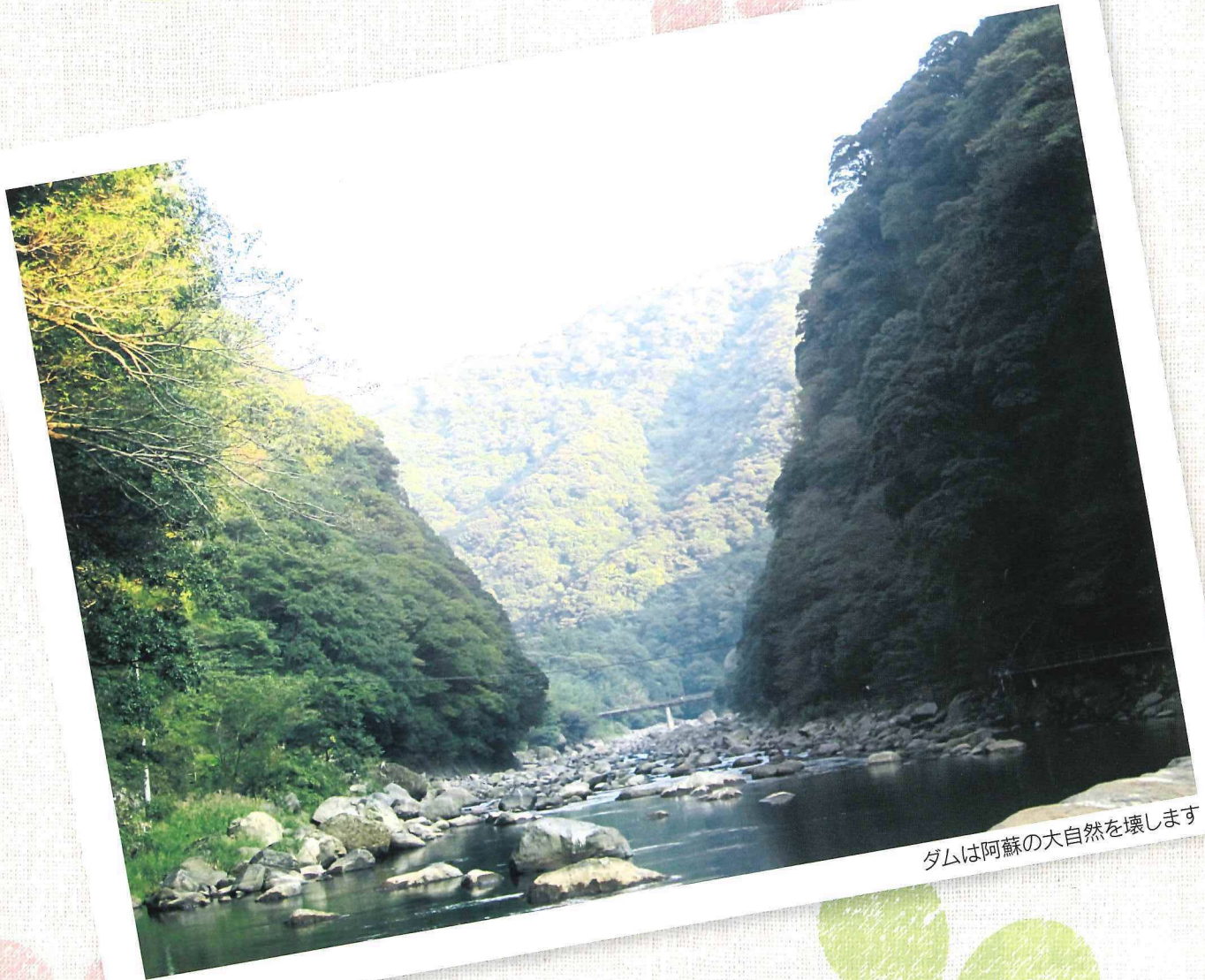


菊陽病院だより-21号

Kikuyo hospital newsletter

2014
夏
SUMMER



ダムは阿蘇の大自然を壊します

01 医師紹介



橋本和子医師

平成3年から、主にくわみず病院、水俣協立病院に内科医として勤務してきました。定期の外來支援を含めると、芳和会の5つの診療所にも勤務しましたので、この菊陽病院で、8つの院所をすべて経験したことになります。初めてのことで、皆様にご迷惑をおかけしていますが、どうぞよろしくお願い致します。



松岡恵美医師

初期研修は1年目を鹿児島生協病院で、2年目はくわみず病院で行いました。昨年12月から菊陽病院でお世話になっていましたが、3月で初期研修は修了し、4月より後期研修医として引き続きお世話になります。一人前の精神科医になるべく頑張っていきます。まだまだわからないことも多くご迷惑をかけることが多いと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

02 精神療養病棟における地域移行支援

東3階病棟 退院支援相談員(PSW) 中内綾子

平成16年に厚生労働省より「精神保健福祉施策の改革ビジョン」が打ち出されて以来、「入院中心から地域生活中心へ」の基本理念の下、精神科の地域支援施策が進められてきました。今回の診療報酬改定では、平成26年度から精神科療養病棟に入院となった患者さん1人につき退院支援相談員を1人以上配置して退院支援を行うように定められました。

現在、東3階病棟の退院支援の対象者は9名となっています。毎月1回、主治医、看護師、退院支援相談員で退院支援委員会を開き、退院支援計画を立てています。患者さんの意向や退院に関わる問題点、課題を検討し、家族面接、外出支援、関係機関とのカンファレンスを実施しており、これまでに2名の退院を迎えることができました。

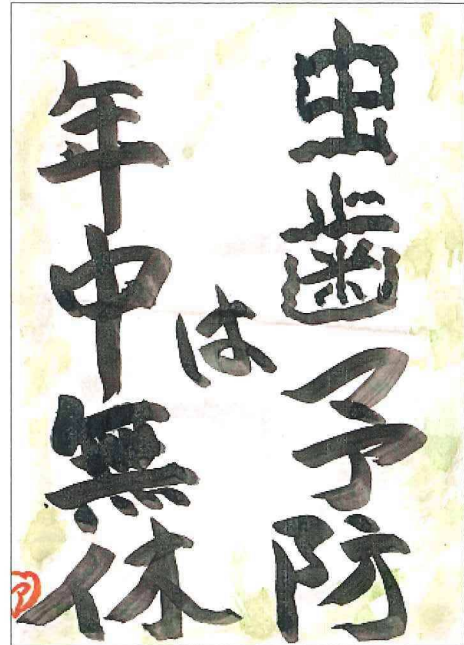
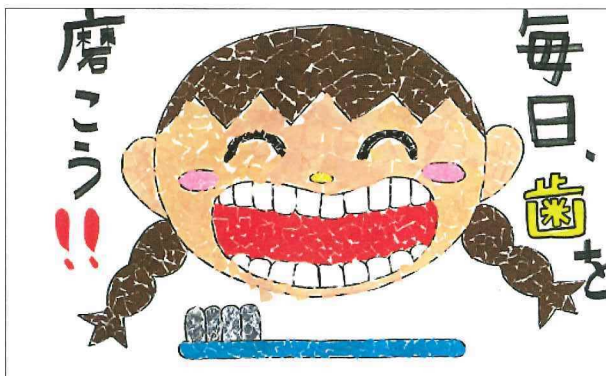
当院は以前から退院支援に力を入れてきましたが、あらたに設置された退院支援委員会を活用し、さらに地域生活への移行を促進できるように、日々の支援を行っていきたいと思います。

03 歯と口の健康月間

菊陽病院歯科 久保田千穂

菊陽病院歯科では、6月～8月までの期間、「歯と口の健康月間」の取り組みを行っています。月間に合わせて歯科に関するポスターや絵・標語のコンテストをおこないました。今年は、昨年よりも多数の作品応募があり、最優秀賞の作品を月間のポスターにしました。

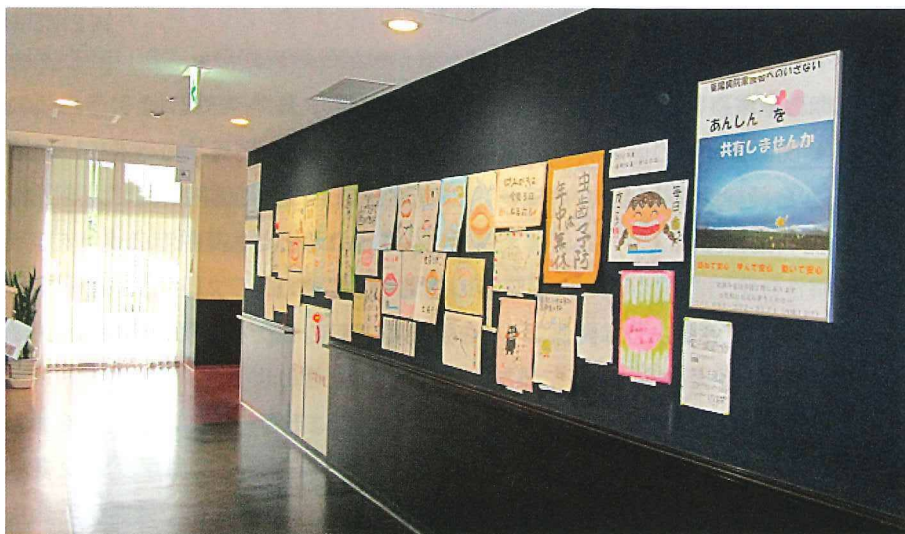
こちらが今年度の最優秀賞作品です。



肥満や生活習慣病の予防のためには、いろんな食べ物をバランスよく食べることが重要です。そして、なんでもよく噛んで食べるためには、健康な歯が欠かせません。自分の歯で何でも噛めるということは、食生活を豊かにすると同時に、健康の維持・増進、病気の予防にもつながります。

歳をとって歯が抜けるのは老化現象の1つだと思われがちですが、歯周病を正しく予防・治療すれば、いくつになっても自分の歯を保つことが可能です。まずはこの機会に是非、歯科検診を受けられて、ブラッシングや歯周病のチェックをしましょう。

また、高齢者に多い肺炎（誤嚥性肺炎）は、口腔ケアを行うことで予防ができます。口腔ケア・訪問歯科についての相談も受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。



▲家族会室前の掲示板に、今年度の作品を掲示しています。ぜひご覧ください。

04 菊陽病院の夏祭り

夏祭り実行委員会事務局長 石松泰之

恒例の夏祭りが今年は7月29日に病院の中庭で行われました。

今回初めて夏祭り実行委員会事務局長という大役を担うことになりました。最初は自分の役割を全うできるかどうか不安でしたが、準備期間の2か月間、職員・患者合同の実行委員会を重ね、先輩スタッフや患者さんに支えられて一つ一つ自分の役割をこなしていくなかで、どうにか夏祭り当日を迎えることができました。

祭り当日は、職員・患者合同のバンド演奏から始まり、和田院長を相手のジャンケン大会、恋するフォーチュンクッキーのリズムに乗っての盆踊りなど、例年になく盛り上がりを見せました。毎年心配される雨にも見舞われず、最後は盛大な花火大会で幕を閉じました。

準備が大変であった分、終わった時の感動もひとしおでした。来場していた方に「今年は楽しかった。また来年も期待しています。」と声をかけて頂いたことが何よりのねぎらいになりました。多くの皆様に最後までご協力いただき本当にありがとうございました。



05 高齢者の早期退院・地域生活への移行

東2階病棟 宮本詩子

東2階病棟では「早期の地域移行を目指し地域生活支援とアウトリーチを強める」という当院の基本指針に基づき入院時から、家族や関係機関との信頼関係の構築や協力体制の強化、情報共有等を行い地域への早期退院を目指しています。4月から精神保健福祉士が病棟専従となりこれまで以上に退院支援に力を入れています。

近年、老人保健施設や特別養護老人ホームに加え有料老人ホームなどでも高齢者の生活を支える体制が整ってきました。施設へ退院される方も増えており、退院後の訪問をはじめカンファレンスや事例検討会の開催など、症状が悪化したらすぐに相談できるような関係づくりを強めています。私たち病院の役割は何かということを考え、地域のみんなで高齢者を支える地域づくりに参加していきたいと思います。

また、超高齢社会への対応として推進されている地域包括ケアでは市町村における医療機関の役割が期待されています。菊陽町が実施している認知症キャラバンの養成講座は現在4名の職員が受講し、認知症キャラバンメイトとして地域の小中学校や地域サロン活動に参加しています。まだまだ不十分ではありますが、これからも高齢者にその人らしい生活の場を提供できるように、地域との連携を強化していきたいです。

06 電子カルテによる ニアミス報告システム稼働

医療事故防止委員会 石原誠也

当院の医療事故防止委員会は毎月会議を開催し、医療活動の中でヒヤリとしたことや、ミスをしそうになって事故につながりかけた事例を各職場から報告してもらい、対策を検討しています。これまでは報告手段として、各職場に用意してある専用のニアミス報告用紙を用いていました。ヒヤリ体験をした職員が報告用紙に手書きをして職場長に提出、それを元に委員会で話し合いをしていました。しかし、これでは集約や統計作業に手間を取り、病院全体での情報共有や対策が遅れてしまうことが危惧されてきました。

この問題を解決するために、当院では1年近くかけて、業者との話し合いを重ね、全職員対象に操作方法、活用方法等の学習会を開催して導入準備をすすめ、2014年6月より正式に「電子カルテによるニアミス報告システム」の稼働を開始しました。スタート時の大きなトラブルもなくタイムリーにニアミス報告書が委員会事務局に届くようになってきました。実際に稼働させると各職場からもっと使いやすく改良してもらいたい等の意見が上がっており、より使いやすくなるように細かな調整を続けていく予定です。

今後も電子カルテによるニアミス報告システムの機能をフルに活用し、より安全で質の高い医療、介護を提供できるよう努力していききたいと思います。



07 禁煙の勉強会をしました!

西5階病棟 鍋島昌弘

6月20日に、禁煙の勉強会をしました。

特別講演では、明生病院(熊本市北区)の阿部裕子先生(薬剤師)から、「精神科病院における禁煙活動 ~明生病院の取りくみと課題~」という演題で講演していただきました。精神科病院での禁煙の取り組みや、喫煙の害、そして医療従事者による禁煙サポートの実践など、たくさんの事を学ぶ機会となりました。

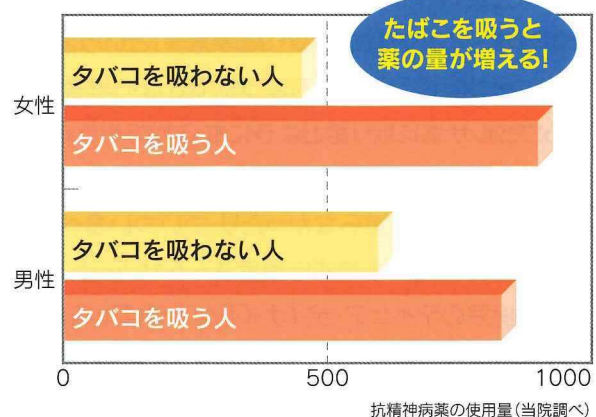
当院からも、薬剤師の井上科長から「喫煙と精神科薬物療法~抗精神病薬の可能性~」、看護師の小橋主任から「当院の禁煙活動の取り組み~閉鎖病棟の喫煙所から見えた課題~」という演題で報告を行いました。たばこを吸っていると薬(抗精神病薬)の使用量が増えるという報告があったり、精神疾患を抱えている患者さんたちの健康を守るために禁煙を進めていきたいという熱い思いを感じたりと、勉強会は大いに盛り上がりました。

地域で活躍している多くの医療従事者の参加もあり、禁煙への関心の高さを感じました。健康のためにも、「禁煙」をオススメします!



明生病院の
禁煙支援“缶バッジ”
くまモンも禁煙応援!

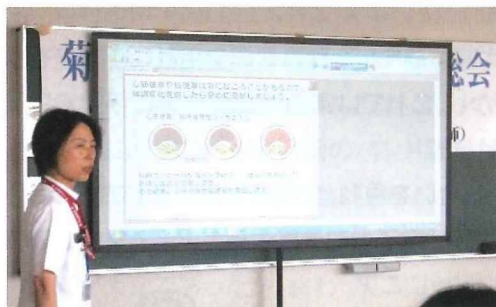
くまもとサプライズキャラクター「くまモン」
くまもとサプライズ熊本県許可第2551号



08 菊陽・大津健康友の会総会

友の会事務局 中田里美

7月1日に、菊陽町の三里木町民センターで友の会総会が開かれ34名が参加しました。



5月から菊陽病院に着任された橋本和子先生が「生活習慣病」について、最近よく耳にする「CKD(慢性腎臓病)」にも触れて講演され、皆さん熱心に耳を傾けておられました。質問もたくさん出され関心の高さがうかがえました。

菊陽・大津健康友の会の新会長には小林久美子さんが選出され、安心して住み続けられるまちづくりの運動をすすめていくための具体的な方針や医療懇談会、レクレーションなどの開催計画が確認されました。



09 ウェルサポって何だろう?

薬剤科 井上裕子

健康を守るためには、まず正しい知識と正しい生活習慣から…と分かってはいても、なかなか実践となると難しいものですよ。精神疾患を抱えている方は、精神疾患の治療を行いながら肥満や糖尿病や高血圧などの身体疾患にも気をつけなければなりません、ついつい生活習慣が乱れてしまう、そんな方も少なくありません。

7月25日の勉強会では、小鳥諫早病院(長崎県)の久保慎司先生(薬剤師)に、「統合失調症患者さんのウェルサポ対策～心が折れない取り組み方～」という演題で講演していただきました。日頃の診療の中で、身体疾患のために精神科の治療が思うようにできない患者さんと出会い、御自身がとても悔しい思いをされたということからウェルサポに取り組むようになられたそうです。「ウェルサポ」とは、造語で、ウェルネス(健康)とサポート(支援)を組み合わせて作った言葉だそうです。

なかなか体重が減らなかったり、ついつい食べ過ぎたりして、いつもうまくいくとは限らない現実の中で、いかに心が折れず、あきらめずに患者さんをサポートできるか、私たち医療スタッフの課題でもあります。

菊陽病院のデイケア・デイナイトケアでは以前から健康支援プログラムを取り入れて体重管理や食生活、運動などそれぞれの患者さんの目標に沿った指導を行っています。久保先生によれば、成功のコツは「スタッフがまず楽しむこと」のようです。健康づくりを通して、患者さんとスタッフが一緒に楽しめるといいですね!

ウェルサポ6箇条

- 健康的な目標体重を決める
- 食生活の問題点を知る
- 健康的な食生活のためのルールを学ぶ
- 健康的な食生活を続けるためのコツを知る
- 健康的なライフスタイルを学ぶ
- 適切な運動を続けるコツを知る



10 松木先生の精神分析学習会

医局 藤野由起子

精神分析の第一人者でいらっしゃる松木邦裕先生(京都大学)を招いての学習会も今回で第5回目を迎えました。熊本大学や宮崎大学の医学部の学生さんをはじめ、あちこちから数多く参加していただくようになり、おかげさまでますます盛況となっています。

どのジャンルにおいても、生まれながらの逸材に磨きに磨きをかけた超一流の人というものは、見ているだけで神々しく、惚れ惚れするものです。樺島先生がそうであったように、常に「正しい方向はこちらなのだよ」と指し示してくださる方のご指導があるからこそ、右往左往している日頃の仕事に今日も立ち向かうことが出来ると思っています。

参加された皆さんも大変熱心に聞き入っていらっしゃいました。松木先生は、今回、学生さんにも参加していただいたことを大変喜んでいらっしゃったので、「松木先生は若くて将来性あふれる学生さんにこそ、本当はどんどん伝授したいのだからなあ」と、学生さんにちょっと嫉妬しましたが、それはそれ。悩める患者さん達のためにも、これからもくじけることなく、しっかりと松木先生のとを追いかけ続けようと思いを新たにしています。当院からは看護師さんにも毎回参加していただいております。感謝です。



11 看護師受け入れ担当者および教育担当者研修会

西3階病棟 中川優子

2014年7月11日(金)~12日(土)にかけて、「民医連九州沖縄地協・看護師受け入れ担当者および教育担当者研修会」が開催され、九州各県・沖縄から73名の参加がありました。

初日の記念講演では、全日本民医連副会長の窪倉みさ江氏に「わたしと看護と民医連」というテーマで講演して頂きました。「自らの経験や事例を通して、従うだけでなく意見が言える看護師になること」、「医療観・看護観・倫理観をしっかりと持つこと」、「日々振り返ること」が患者さんの命を守ることにつながることを学びました。

2日目のシンポジウムでは「1人ひとりがキラッと輝く看護師に」をテーマに、看護学校の教師2名、看護師受け入れ担当者1名、教育担当者1名がシンポジストとなり、それぞれの立場から発言しました。看護学校の先生からは、学校の理念や教育内容、就職先に望むことなどを聴くことができ、「業務が出来る看護師ではなく、看護が出来る看護師を育ててほしい」という思いが述べられました。



現場で働く看護師の姿は学生のモデルであり、看護実習は、看護の魅力を知ってもらえる場になることなど、自分たちの日頃の医療活動を考え直す機会となりました。これからも、新しい仲間として、病院全体で看護学生や看護師を受け入れ、共に育っていけるように頑張っていきたいと思います。

編集後記

福井地裁が下した大飯原発運転差止判決を読んで心が洗われる思いがしました。豊かな国土と国民の根を下ろした生活を喪失してしまう原発と生命の営みとは相いれないものだと思います。(T・Y)